

近畿支部主催 システム監査入門セミナー（2回目）を開催して No.1411 岡谷 亨

平成22年7月10日土曜日、大阪駅から歩いて10分強にある常翔学園で、近畿支部で今年度2回目となるシステム監査入門セミナーを開催しました。10時から17時までの1日コースで、スーパーに対するシステム監査のケーススタディです。受講者は11名と演習に適切な人数でしたが、入門セミナーという名称に似合わず、システム監査の経験者が6名参加されていました。また、残りの方も3名は内部監査部門の方で、監査のベテラン揃いといった陣容でしたので、初めてシステム監査に触れられる受講者の方とレベルが違いすぎないか、受講者の全員に満足頂けるかどうかを心配していました。



最初にセミナーの説明やスタッフ及び受講者の自己紹介を行った後、三橋氏が「システム監査概要」の講義を行いました。次に、金子氏が演習の説明を行い、受講者が3チームに分かれてチーム単位での演習に入りました。金子氏の説明は、予備調査の結果からシステム管理基準にどのように結びつけてインタビューの確認項目（チェックポイント）を決定するか具体的な紐解きのヒントを含んでおり、大変わかりやすい説明でした。第1回目の反省を踏まえた改善点でしたが、入門者に対してチェックリスト作成のポイントがわかりやすく伝えられたのではないかと感じました。

午前中チェックリストの作成を行った後、作成したチェックリストを用いて午後一にインタビューの演習を実施しました。第1回目と異なり、今回は3チームでしたので、被監査部門役を3名に増やしての演習でした。受講後のアンケートで、“ヒアリングを受ける側のみなさんの演技力には脱帽です。”と書かれていましたが、部長役の荒町氏、課長役の是松氏とも、役になりきって名演技をされていました。かくいう私も今回は課員になりきってインタビューを受け、サービス残業の実態まで吐露するはめになりました。（もちろん架空です。笑）

インタビューが終了すると、監査結果を監査報告書にまとめて頂き、監査報告会で報告頂きました。この入門セミナーの面白いのは、監査報告会も体験の場としている所です。スーパーの広瀬専務及び、監査依頼者である関西内部監査室長等に対してチーム単位で監査報告して頂きましたが、いずれの監査チームとも、関西室長からの執拗な質問に上手く回答されていました。



監査経験者が多いということでもかなりレベルの高い演習となりましたが、受講者の皆さんから有意義なセミナーであったとの感想を頂き、スタッフ一同安心しました。手前味噌ながら、この入門セミナーは、「この内容で、この面白さで、この値段?!」を地でいくセミナーではないかと思えます。この入門セミナーというショートコースにご満足頂いたら、ぜひ、実践セミナーというフルコースにも参加頂きたいものです。

セミナーワーキンググループのスタッフの皆様、当日都合が悪かったにも関わらず顔を見せて頂いた吉田支部長様、講義資料の改良にご助言頂いた藤野副支部長様、皆様どうもお疲れ様でした。ぜひ来年も実施したいですね。尚、今回のセミナーでは、関西氏がツイッターで常時セミナーの状況をつぶやく試みも実施されました。皆様ぜひ探してみてください。

「システム監査入門セミナー」に参加させていただいて

情報技術開発(株) 監査室 堀畑 行彦

7/10 開催の「システム監査入門セミナー」に参加させていただき、ありがとうございました。

今回の感想を聞かせてほしいとのご依頼をいただき、少し書かせていただきます。

「堀畑くん、このセミナー参加してみないか？」それは、5月のある日上司の一言より始まりました。

4月に監査室に配属され、監査が何かということでも日々戸惑っている最中なのに、監査室の業務にシステム監査があるからといって、IT企業に勤めながら、開発経験ゼロの私には絶対無理！と思い最初はお断りいたしました。しかし、上司の「何事も経験」というお言葉で、めでたく参加が決定しました。それからの不安な日々…。システム監査の資料を読んだり、事前資料をいただいてからはケーススタディのシステムについて、わからないなりに理解しようと悪戦苦闘の毎日でした。

いよいよセミナー当日、不安で睡眠不足気味のまま突入です。まず参加者の方々の自己紹介があり、お聞きしているとシステム開発経験者の方が多数参加されておられ、益々不安は増すばかりです。

こんな監査も新人、システムも素人が参加していいのかって思っていました。

最初は、システム監査に関する概要の講義、事前に資料を見ていたので、理解はしやすく、またゆっくりとわかりやすくご説明いただいたので、少しほっとしました。

いよいよチームに分かれての演習です。私はM氏、U氏とともに、Cチームです。なにやら舞上がっている間にリーダーということになってしまい、いよいよ混乱する私。

演習は、ケーススタディに沿って、各自の役割分担を決め質問項目をまとめる作業になりました。

お二人はどうかシステム開発経験者らしく、落ち着いて質問項目の要点をまとめていく。私は、あせりながら、必死でない知恵をしばって質問を考える。そうしている間に、昼食になりました。

午後からは、いよいよ監査のロールプレイングの開始です。講師の方々の見事な役者ぶりに感心しつつ、必死で質問とその答えを聞いて、問題点を検討しようとするが、システム素人の悲しさで、なかなか考えつかない。質問も途切れてしまい、お二人に続きをお願いしてしまう始末。チームメイトと講師の方々にも助けていただきながら、なんとか質問の演習は終了。



「リーダーの方に、監査報告を発表していただきます。」エー、またまた難題だ。生来の緊張症の私が、監査報告の発表なんて……。報告内容は、チームメイトのお力でなんとかまとめあげて、いざ発表です。緊張で頭の中がカラッポになりながら、なんとか発表しました。改善点もご指導いただき、なんとか終了です。その後ケーススタディの解説をいただき、なるほどということかと納得したり、そういう視点でみるのかと感心したり、とシステム監査の難しさを感じながら、無事セミナー終了です。

今回セミナーに参加させていただき、本当に貴重な経験をさせていただきました。わからないなりにシステム監査を少し体験できたことは非常に有意義でこれからの監査の業務に活かしたいと思います。また、こんなできの悪い生徒を、講師の先生方や参加者の皆さんは、非常に暖かく迎えてくださり、感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。また、ご一緒させていただく機会がありましたら、こんな私ですがよろしく願い申し上げます。

以上

7月10日(土) システム監査入門セミナー1日コース 感想文

オルタネート 水内 一九昌

今回のセミナーは、資料を一読する事無く、目を通しただけで参加しました。

テキストは、熟読してません。今、私の中では、Webに集中中です。

ケーススタディは、Aチームに参加しました。



演習 1 : チェックリストの説明と作成

担当の決定

リーダー、システム課長担当メンバー、システム課員担当メンバー、店舗営業部部長担当メンバー の担当を決めました。

チェックリスト作成は 30 分位の感覚です。

昼食も 30 分位で引き上げ、休憩無く、チェックリストを検討していました。

演習 2 : 監査の実施

各回メンバー全員参加で行い、1 回目はまだ余裕が有りましたが 2・3 回目は余裕も無く、時間も足りないくらいで、監査報告の纏めの事も頭を過ぎりました。

演習 3 : 監査報告のまとめ

検出事項・改善提言は全員で作成しましたが、総評は報告者が纏めた方が報告しやすいと考えればリーダー任せでした。

監査報告のまとめの終了までは、頭を使いっぱなしで胃に血液が流れず気が付けば、消化不良のようでした。

リーダーの監査報告、他のチームの報告の時は、ホッとしてました。

経産省「システム監査基準」から、資料～ケーススタディへの展開は、納得です。

ケーススタディ解説

なるほどなあ～ て、 感じます。

A チームの他のメンバーは、テキストを熟読しているようでした。

感想文を書くのに資料は、よく読みました。セミナー参加前に熟読していればと考えています。

これからも、テキストに目を通すようにします。

受講者自己紹介は、チーム分け後の方が良いのではないのでしょうか？

チェックリストの作成時間は、もう少し時間が欲しいです。

IBM ユーザー会の関西研の「H18T2 内部統制」に参加して、

2004 年 経産省「システム監査基準」改定公表(平成 16 年度版)

2007年 経産省「システム監査基準」追補版(財務報告に係わる IT 統制ガイダンス)目を通すぐらいは、行っていました。

もともと、プライバシー・マーク、ISMS の情報収集は行っていました。

セミナーも、いろいろ参加してます。

07.07.17 SAALK

09.07.17 SAALK IFRS

09.12.19 ISACA IFRS

10.05.21 SAALK ソフトウェア資産管理

ケーススタディ自体は、抵抗感も無く難易度の高いものでは有りません。

入門セミナー位のペースの仕事では、余裕が無さそうです。

もっと、じっくり考えて出来る仕事がしたい物です。

私のビジネスモデルは、助言的監査からのシステム構築です。

システム再構築のシステム監査には、今回の体験は有効に活用します。

各チームの監査報告に、コメントして配布してもらえないでしょうか？

ホットな内に理解を高めます。

よろしく 御願います。